令和8年度にいただいたご意見・回答

日付	分野	協働のまちづくり
4月14日	ご意見	町内会の運営についてご相談申し上げます。 この春、当班（17軒）において2軒が退会されましたが、明確な理由は示されておりません。 現在、班に所属している世帯は、年間約2万円の班費を負担し、各種募金、神社への寄付、街灯の電気代、ゴミステーションの管理等を担っております。また、偶数月には宮川の一斉清掃にも参加し、早朝から作業を行っております。 一方で、退会された世帯におかれましても、ゴミステーションの利用や地域環境の維持といった恩恵を受けている状況にあり、負担と受益の不均衡が生じていると感じております。このことが、現行制度に対する不公平感を強める要因となっております。 近年の社会状況の変化を踏まえますと、従来の町内会の仕組みだけで地域運営を維持していくことには、限界があるのではないかと考えます。 例えば、町内会に加入していない世帯も含め、行政主体で公平に負担を分担する仕組みの検討が必要ではないでしょうか。 地域の持続的な運営のためにも、制度のあり方についてご検討いただけますと幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。
	回答	町内会の皆様には、地域の方が安全に安心して暮らせるよう、ごみステーションの管理や環境整備など 大変重要な役割を担っていただいていることに 感謝申し上げます。 町内会未加入者がごみステーションを利用すること、草刈りなど環境整備を加入者だけで担うこと等について、不公平感を感じる人がいらっしゃるなどのご 意見を他の町内会からも伺っております。 近年、町内会では未加入や脱退により会員数が減少傾向にあり、このままでは地域で安全に安心して暮らせる環境づくり、日常や災害時の助け合いなど町内会の大切な役割を果たすことができなくなってきます。 そのため、町内会自身の負担軽減を図ることや、町内会の役割の一部をまちづくり協議会が担うことなど、持続可能なコミュニティづくりのため、市や各町内会、まちづくり協議会でも議論し改善を図っているところです。 大変重要な課題ですので、今後も関係部署とも共有してこの課題について引き続き取り組んでまいります。何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

10月9日	ご意見	私は高山市に住む20歳の市民です。 高山の自然や歴史ある街並み、落ち着いた生活環境が好きで、これからも高山が住みやすく、活気のある街であってほしいと思っています。 今回、第九次総合計画や若者定住促進事業、中心市街地活性化、地域公共交通に関する取り組みなどを拝見しました。若者の地元就職や住宅への支援、移住・定住の促進、中心市街地の活性化、のらマイカーをはじめとした公共交通の見直しなど、人口減少を見据えたさまざまな取り組みが進められていることを知りました。 その上で、実際に高山で生活している若者の一人として、今後のまちづくりに「若者が余暇を楽しめる環境」という視点も、さらに取り入れていただきたいと思っています。 高山には日常生活に必要な買い物ができる店舗や商業施設は充実しています。一方で、若者が放課後や休日に友人と遊んだり、趣味を楽しんだりすることを目的とした娯楽施設については、選択肢が少ないと感じています。 例えば、市内にはゲームセンター、カラオケ、ボウリングなどがありますが、店舗数が限られているため、料金、サービス、設置されているゲームなどを比較して利用者が店舗を選ぶことが難しい状況です。 特にゲームセンターでは、音楽ゲームなど趣味性の高い分野になると、市内で遊べる機種が限られ、市外へ行かなければ楽しめないものもあります。カラオケについても、複数の店舗が競争することで、料金やサービスなど利用者にとっての選択肢が広がるのではないかと思います。 特定の企業や店舗を市が直接出店させることは難しいと思います。そのため、ゲームセンター、カラオケ、屋内スポーツ、体験型施設など、若者を含む幅広い世代が利用できる民間の娯楽事業者が高山へ進出しやすい環境づくりや企業誘致、空き店舗等の活用について検討していただきたいです。 高山は雨や雪の日も多いため、天候に左右されず利用できる屋内型の娯楽が増えることにも大きな意味があると思います。 また、娯楽施設そのものと同じくらい重要だと感じているのが、車を持たない若者でも市内を移動できる公共交通です。 私自身、市内の娯楽施設へ行こうとすると、徒歩では20～30分程度かかる場合があり、自転車を利用することもあります。しかし、雨や雪の日には自転車が利用しにくくなります。特に自家用車を持たない中学生、高校生や若者にとって、「行きたい場所は市内にあるのに、気軽に行くことができない」という状況は、行動の選択肢を狭めてしまうと思います。 現在、のらマイカーの路線・ダイヤの見直しや住宅団地線の試行などが進められていることは、とても良い取り組みだと感じています。今後は買い物や通院などの生活交通だけでなく、若者の余暇・交流・娯楽のための移動についても考慮し、住宅地から徒歩でアクセスできる停留所と、中心市街地、高山駅、学校、商業施設、娯楽施設などを結ぶ、利用しやすい公共交通について検討していただければと思います。 また、高山市は非常に広い市です。自然環境や歴史的景観は高山の大きな魅力であり、今後も大切にしてほしいと思っています。その一方で、既存市街地とその周辺の開発に適した地域については、住宅だけでなく、商業・娯楽・交流機能なども含め、暮らす人にとって便利な都市機能を計画的に充実させてほしいです。 若者が高山を離れる理由には、進学、就職、賃金などさまざまな事情があり、娯楽不足だけが人口減少の原因ではないと思います。 しかし、若者の定住や将来的なUターンを考えるのであれば、仕事や住宅があることだけでなく、「休日に友人と遊べる」「自分の趣味を続けられる」「新しい趣味に出会える」「車がなくても出かけられる」「この街で暮らしていて楽しい」と思えることも、住み続けたい街をつくる重要な要素ではないでしょうか。 周囲でも、若者向けの娯楽が少ないという声を聞くことがあります。私自身も県外の都市を訪れ、公共交通で気軽に移動でき、多様な娯楽を選べる環境を実際に経験したことで、高山にも高山の規模や特色に合った形で、もう少しそのような環境があればと強く感じました。 高山を都会と同じ街にしてほしいわけではありません。豊かな自然や歴史、落ち着いた環境といった高山らしさを守りながら、若者にとっても「住むことができる街」から「これからも住み続けたい街」へ、さらに魅力を高めてほしいと思っています。 若者の定住促進、中心市街地の活性化、公共交通の改善を進める際には、ぜひ「若者の余暇・娯楽」という視点についても検討していただければ幸いです。

	回答	高山市の将来に向け、また若い世代の皆さまが住みよいまちとなるため、ご提案をいただき、誠にありがとうございます。 市としても、若い世代の皆さまから娯楽施設を求める声が多数寄せられていることは承知しており、娯楽施設を運営される事業者などと意見交換や出店の可能性等を聴取するなどを行っています。 しかしながら、ご質問でも触れられておりますが、仮に出店したとしても人口規模や採算などから継続して運営していくことが難しいという意見がほとんどであり、行政の立場としても、積極的な誘致などは困難であると考えています。 一方で、高山市は、年間490万人という多くの観光客に訪れていただき、伝統文化や産業などが受け継がれるとともに、民間事業者によるカフェや飲食店などの出店が進むなど、市民にとってもにぎわいに生む可能性にあふれたまちであります。「このまちに暮らして良かった」「暮らしていて楽しい」と思っていただける若者を増やしていくための取組みとして、若い方々の活動を支援する若者活動支援補助金や若者が自由に利用していただける場の提供として若者等活動事務所（村半）の運営、地元就職した若者に対する支援金給付・奨学金返済や賃貸住宅の初期費用に対する支援のほか、多様な働き方を選びやすくなるよう市内で新規創業する若者に対する支援（特定創業支援事業補助金での優遇）などに取り組んでいます。 また、市内企業に採用された若手社員が抱える悩みや課題、働きがい、スキルアップをテーマに他社の同世代の社員との交流等を行う若手社員向けセミナー「YAONA（やおな）！」を開催しています。 公共交通については、全国的にもバス運転手の不足の課題もあり、市でも路線の増加などが困難な状況ではありますが、少しでも市民の方々の利便性の向上に向け、 ご承知のとおり重複路線の見直しや住宅団地線の試行など、見直しを行ったところです。 これで完了という訳ではなく、今後も若者をはじめ、市民の皆さまのご意見を伺いながら、必要に応じて見直ししていく必要はあると考えています。 「これからも住み続けたいまち」へ魅力を高めるということは、同じ想いでありますし、若い世代の皆さまが活躍でき、「高山へ戻ってきて良かった」「高山に暮らせて良かった」と実感できるまちの実現に向け、 今後も取り組んで参りますので、引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いします。